



(ホームページもご覧ください <http://www.ojima-shinichi.com/>)

筑西市下野殿 801-1 TEL0296 (24) 8951

筑西市議会議員 小島 信一

6 月定例会より 報告 (令和 5 年 第 2 回定例会) 7 月 10 日発行

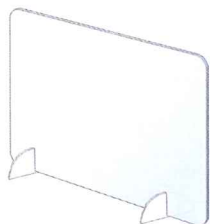
○国の方針に矛盾する市のコロナ対策

市長は定例会冒頭、「新型コロナの感染症法の位置づけが5類(インフルエンザ並み)に変更となり感染対策は個人の判断が基本」といいながら「本市におきましては職員のマスク着用、アクリル板設置を継続します」と発言。発言自体に矛盾がある。



「コロナ感染症は未だ収束していない」という専門家(市の産業医)の意見ということだが、インフルエンザウィルスも収束も終息もしていません。国が新型コロナはインフ

ルエンザと同じ扱いでよいと言っていることを考えれば市長の対応は過剰防衛であり弊害の方が大きい。



私の一般質問を参照ください。

○筑西市魅力発信の司令塔が発足

これまでは沢山ある筑西市の魅力を戦略的に発信できない状態であった。農産物、歴史資源、各種のイベント、アルテリオ・美術館・波山記念館などの施設、これらはそれぞれの部署がバラバラに発信してきた。

優れた農産物の称号 民間のヒロサワシティ、県立の生涯学習センターもある。これらの情報をまとめ発信する司令塔として シティプロモーション推進課が発足した。



さらにその付属組織として「ちくせいシティプロモーションプロジェクト会議」が発足した。民間の有識者の組織ということです。一般質問を参照ください。



○工事入札が成立・・・明野・放課後児童クラブ

明野五葉学園内に設置予定の放課後児童クラブの建設工事の入札が成立した。

赤丸の部分



落札価格 4億260万円(税込み)
最大定員 190人
建築面積 400㎡ 鉄骨2階建て

建設費の坪単価は200万円。関城認定こども園と同様大規模で高額な施設である。今後の需要数、民間との質の格差など、公立の児童施設にここまでの必要性があったのか検証する必要がある。

○補正予算で成立した事業

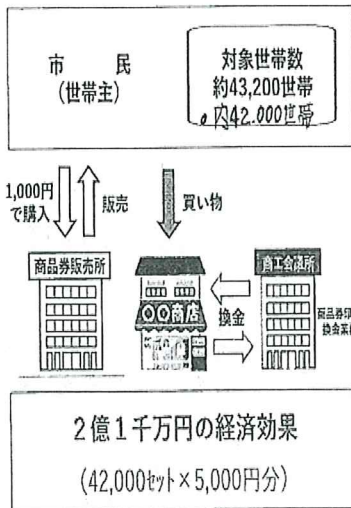
① 中央図書館東側一賑わいづくり拠点・3800万円
コンテナハウスやキッチンカーを設置し、図書館脇に賑わいの拠点を創出するもの。市が整備し民間事業者が営業する計画



駐車場が確保できない現状では開業する民間事業者の招聘に苦慮することが予想される。無理に招聘すれば赤字分を市が負担する指定管理制度となる可能性がある。専門的市場調査(マーケティング)を踏み、撤回も選択肢としなければ市のお荷物になりかねない。

○補正予算で成立した事業

②超プレミアム商品券発行业業・2億3000万円



- ・市民への家計支援
- ・地元飲食店商店支援
- ・地域経済の活性化

- 1000円で購入し5000円分買い物できる。
- 1組は1千円券2枚、500円券6枚
- 販売数42000組
- 経済効果42000×5000=2億1000万円
- 販売時期10月

懸念材料は

- ①超プレミアム券ということで、券そのものが売買され、換金される可能性がある。防止策も重要。
- ②2億3000万円の予算で2億1000万円の経済効果というのは非効率。費用をかけてバラマキするに等しい。1000円で2000円分使える券で十分。これを16万5000組なら経済効果3億3000万円である。

③道の駅拡張整備事業の基本計画・3100万円

これまでに用地測量費1400万円が投じられているので基本構想・基本計画作成までに合計で4500万円が投じられる。下図は基本構想から引用。



基本構想では

- 1 駐車場250台、1台分の区画は2.8m×6m
 - 2 広場には屋外遊具、幕構造物による大日陰空間
 - 3 道の駅の既存部分と一体性を重視
 - 4 散策、ウォーキング可能な歩行者導線の設計
- 基本計画には議会チェックが必要です。

○一般質問

筑西市役所のコロナ対策について

小島質問：5月8日以降、新型コロナウイルスの感染症法上の扱いが2類から5類に移行された。つまりインフルエンザウイルスと同じ扱いとなった。にも拘わらず、庁舎内の風景はマスクとアクリル板だらけ。市長はどのような支持を出しているのか。

市長答弁：5類になってから感染者数が増加傾向にある。来庁者の安全を考えマスク、アクリル板はもう少し維持し、状況を見守るよう指示をしている。

小島質問：新型コロナウイルスはインフルエンザと同じ扱いだと政府が決定しているのに、市が特別扱いで対応するというは過剰防衛ではないか。市独自の検証に基づく科学的根拠があるのか。

保健福祉部長：市独自の検証はやっておりません。

市長答弁：もう少し状況を見極めてから前に進みたい。

今ではマスクのデメリットを訴える専門家もいる。特に児童への悪影響が大きいという。政府もデメリットに関する報道をすべきではないか。

また新型コロナワクチンの接種率は73%、インフルエンザのそれは35%、医学的な対策は十分である。

シティプロモーション推進課について

小島質問：シティプロモーション推進課設置のねらいは何か？

市長公室長：筑西市の魅力を一貫的に情報発信し、市の知名度とブランドイメージの向上を目指す。それにより、交流・定住人口の増加、市民の地元への愛着を深めることです。

小島質問：私が最も期待していることは、筑西市にたくさんある魅力、この魅力発信の指令塔として積極的な情報の収集、取材そして発信です。これができるか？

部長答弁：市民からおすすめ情報を頂く、市外からお越しの方に市の魅力を取材することも検討している。庁内の体制としては、各課にシティプロモーション推進員を設置しここから各課のイベント情報を収集する。これまでのホームページに加えシティプロモーション用のSNS発信を始めています。

筑西市にはすでにたくさんの資源があります。観光資源、施設資源です。これまではこの資源の魅力が戦略的に発信されてこなかった。筑西市の賑わい、ひいては人口増につながる活動を期待したい。